

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

モクモク、ドシャーの積乱雲に注意！

これからの季節、青空をバックにモクモクと真っ白に輝く雲が盛り上がっていくのを、ご覧になることも多いのではないのでしょうか。夏を中心とした暖候期は急に激しい雨が降るなど、寒候期の雨の降り方とは様子が異なります。

右の画像のようにモクモクと盛り上がっていく雲を“雄大積雲”や“入道雲”と呼んでいます。更に上空めがけて発達すると、局地的に大雨を降らせる“積乱雲”に成長します。雷を伴うことも多く、“雷雲”と呼ばれることもあります。



積乱雲



左の画像は、中央区・千代田区付近に局地的大雨を降らせている積乱雲で、江戸川河川敷から見たものです。1時間60ミリ前後の非常に激しい雨を滝のように降らせ、傘などは全く役に立たず、辺り一面水しぶきで白っぽく視界が悪くなり、車の運転も危険になります。

積乱雲一つの寿命は凡そ30分～1時間で、小学校のプールよりも大きい標準的な25mプール(600m³)の数千倍、ときには1万倍前後の雨を降らせると言われています。“空の何処にそれだけ大量の水があるんだ！信じられない！”という気持ちにもなりますが、空気中には雨の種になる目には見えない水蒸気が大量に含まれています。

昨年6月16日朝、中野区付近で積乱雲が急に発生・発達して、冠水被害が起きそうな豪雨が降り、妙正寺川の水位が急上昇、短時間に氾濫危険水位前後に達しました。その時の雨雲の様子を右の画像です。積乱雲が2つほど発達し、局地的に豪雨を降らせているのがよく分かります。

現在の予報技術では、東京地方の大気が不安定になることはほぼ予想できるものの、積乱雲が何時・何処で発生し、どのくらいの規模になるかは、かなり難しいのが現状です。

テレビの天気予報解説などで、“大気が(非常に)不安定となっています”とか、“にわか雨に注意が必要”などと聞いたら、今後の気象情報に注意するとともに、スマホなどで雨の様子をご確認ください。気象庁HPの「雨雲の動き」などがお薦めです。葛飾区内では裸地がほとんど無いことから、排水が間に合わないほどの雨が降ると、冠水していきます。周囲より低く水が溜まりやすい所やアンダーパスなどでは、特に注意が必要です。この夏も局地的な豪雨は降るものと心得、その準備とご自宅周辺の排水溝などにゴミなどが詰まっていないかのご確認もお願いいたします。

問い合わせ先
危機管理課災害対策係 電話 2274



出典：気象庁HP



出典：川の防災情報